

第2回 宗像市住生活基本計画策定委員会 会議録

平成24年12月17日（月）14:00～17:00

宗像市役所3階 301会議室

□委員名簿

氏名	役職名	備考
志賀 勉	九州大学大学院 人間環境学研究院都市・建築学部門 建築計画講座 准教授	会長
岡 俊江	九州女子大学 家政学部 人間生活学科 教授	副会長
大野 浩二	社団法人 宗像青年会議所 理事長	
野田 聖子	市民公益活動団体 住マイむなかた 会員	
高山 裕明	福岡県 建築都市部 住宅計画課 参事補佐兼計画係長	
福地 幸子	市民代表（行政書士事務所 代表）	
華田 昭子	市民代表（特定非営利活動法人消費者支援ネット宗像 役員）	

□事務局

都市建設部 建築課

中野課長・中村係長・豎山・角脇

グローバル・ライフ・サポート（株）

日暮・大淵

協議内容・意見

- パブリックコメントのなかで議論を要する意見が出た場合、委員会を開かなくてもよいのか。
→議論を要する意見が出た場合は、会議の開催をお願いする可能性があります。その際にご協力お願い致します。（メール等でのやり取りも可能）
- 現在、住宅公団という名称は使わないのでは。
→UR 都市機構という正式名称で統一しています。
- 市営住宅戸数の相違について
→361戸で修正済み（資料編P.28）。
- ページ数の表現はP〇〇でよいのか。
→P.〇〇で統一しました。
- グラフやデータなどは全体構成の中で、この位置でよいのか。
→構成を分かりやすくするため、補足資料は本編の後に資料編としてまとめました。
- 住宅セーフティネットに関する内容が少し薄いのではないのか。
→住宅を取り巻く課題として取り上げました（P.15）。
- “本市における課題”と“施策の体系”の関連性が分かりにくいのでは。
→P.20以降の“基本方針”で課題との関連性が分かるよう説明を追記しました。
- 宗像市でも中古住宅の流通促進について、成果指標、重点プログラムで具体的に言及すると、市の取り組みが市民にも分かりやすいのでは。
→“空き家・空き地の流通促進”を重点プログラムにて取り上げました（P.30）。
- 古民家の活用等について市民をまきこむような取り組みがあるといい。
→“住民主体の美しい住宅地づくりの促進”のなかに追加しました。（P.27）。

- ・ P. 39 のグラフについて、N=282 を 100% としてグラフを作成したほうがよいと思います。また、P. 41、P. 42 の②、③について、それぞれ街なかに住みたい人等を総数としたグラフに修正したほうがよいと思います。(志賀会長、岡委員)

【回答】

- ・ グラフ等の修正を行い、また複数回答に関して説明文を挿入します。(中村)
- ・ 宗像市の場合、独自施策(住マイむなかたなど)での取り組みが素晴らしいので、そういった取り組みを活かすような施策内容がよいと思います。(志賀会長)
- ・ 制度上、最低敷地面積 200 m²を 165 m²ほどにすれば若者や核家族世帯にマッチした宅地の提供ができる。一方で最低敷地面積を 165 m²ほどに小さくしてしまうと宗像市の魅力であるゆとりや豊かさのようなものが壊れてしまうのではないか、などの意見があります。まず、宗像市の魅力として感じられるゆとりや豊かさとはどういったものなのか議論した上で、そのゆとりや豊かさを壊さない範囲で施策を進めていけばよいと思います。(高山委員)